

発災から1か月半、国に被災者の生の声届け、一步前へ 岡山・倉敷の市議団が2度目の政府交渉



8月22日、日本共産党岡山市議団・倉敷市議団が上京し、仁比聡平参議院議員とともに被災者の生の声にもとづく15項目を政府に要望しました。すみより聡美岡山選挙区予定候補が同席しました。(写真)

竹永光恵岡山市議団長は、住家の被害認定調査に関して岡山市の二次調査に消極的な姿勢を指摘しました。これに対して内閣府の担当者は「被害認定は被災者の生活支援に不可欠なもの。

内閣府は2次調査の周知徹底を自治体に求めている」と答えました。

また、末田正彦倉敷市議団長は、被災住家の公費解体に関して要請。環境省の担当者は「片方の壊れかかった建物と切り離れた残りの建物が構造上問題がなければ、公費解体の対象になる」と答えました。両市議団は、こうした成果を踏まえ、被災者支援と九月議会の論戦に全力を挙げています。

大平さん庄原を訪ね、JAとの懇談、被災地調査

8月20日、大平喜信前衆議院議員は、谷口たかあき庄原市議の案内でJA庄原を訪れ、藤原信孝組合長と懇談しました。(写真)

藤原組合長は、「農業被害は、収穫が終わるとか、来年の作付けがどうなるかなど、長い目で見ないと分らない。災害が引き金となって、農業を続けることを諦める農家が出る可能性がある」と不安を述べました。

大平さんは、「災害が原因となって一人の離農者を出さないよう全力を挙げたい」と語りました。



仁比議員、山口で国政報告、大平さん各地で入党者

仁比聡平参議院議員は19日、山口県日本共産党後援会総会に出席し、「本気の共闘で、嘘にまみれた安倍政治を打倒しよう」と国会報告を行いました。(写真)

また、大平さんは被災者支援に全力を挙げるとともに、「月間」の取り組みでも、各地で入党者を迎えています。